

学 科	鍼灸マッサージ科	学 年	2年生	期 別	通年	科目の実務経歴	有
授業科目名	東洋医学概論Ⅱ			担当教員	天野 陽介		
授業の方法	講義、演習			単位数	2単位	時間数	60時間
学修内容	東洋の自然哲学、東洋医学における人体の構造と機能の考え方、病理観などの基本的知識を理解し、病気の予防、診察、治療において適切な対応ができるように、東洋医学的診断法である弁証論治について学ぶ						
授業の到達目標	2) 医学的知識 4. 東洋医学の自然哲学・健康観・病理観について理解する。						
授業計画	前 期			後 期			
	回	テーマ		回	テーマ		
	1	第2章 生理と病理 第4節 病因病機 I. 病因 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(八綱弁証) 第5章 弁証論治 第2節 論治		1	第2章 生理と病理 第4節 病因病機 II. 病機		
	2	第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(八綱弁証) 第5章 弁証論治 第2節 論治		2	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関連した領域(六腑) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(臓腑弁証)		
	3	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(気血津液弁証)		3	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関連した領域(六腑) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(臓腑弁証)		
	4	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液) 第5章 弁証論治 第2節 弁証 I. 弁証方法(気血津液弁証)		4	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 III. 五臓の相互関係(五臓の複合病証) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(臓腑弁証)		
	5	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液) 第5章 弁証論治 第3節 弁証 I. 弁証方法(気血津液弁証)		5	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 III. 五臓の相互関係(五臓の複合病証) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(臓腑弁証)		
	6	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 III. 人体における陰陽 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(気血津液弁証) 第5章 弁証論治 第2節 論治		6	中間試験		
	7	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 III. 人体における陰陽 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(気血津液弁証) 第5章 弁証論治 第2節 論治		7	第2章 生理と病理 第3節 経絡 I. 経絡の概念 II. 経絡の機能 III. 経絡の構成 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(経絡弁証)		
	8	中間試験		8	第2章 生理と病理 第3節 経絡 IV. 経絡の病理(十二経脈) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(経絡弁証)		
	9	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関連した領域(総論) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(臓腑弁証)		9	第2章 生理と病理 第3節 経絡 IV. 経絡の病理(十二経脈) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(経絡弁証)		
	10	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関連した領域(肝) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(臓腑弁証)		10	第2章 生理と病理 第3節 経絡 IV. 経絡の病理(奇経八脈) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(経絡弁証)		
	11	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関連した領域(心) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(臓腑弁証)		11	第2章 生理と病理 第3節 経絡 IV. 経絡の病理(奇経八脈) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(経絡弁証)		
	12	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関連した領域(脾) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(臓腑弁証)		12	第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(六淫弁証・六経弁証)		
	13	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関連した領域(肺) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(臓腑弁証)		13	第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(衛気営血弁証・三焦弁証)		
	14	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関連した領域(腎) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(臓腑弁証)		14	第5章 弁証論治 第1節 弁証 II. 標本と主客 第5章 弁証論治 第2節 論治 I. 治則 II. 治法		
15	第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(気血津液弁証) 第5章 弁証論治 第1節 弁証 I. 弁証方法(臓腑弁証) 第5章 弁証論治 第2節 論治		15	第5章 弁証論治 第3節 弁証論治の進め方と証の決定			
評価基準	評価: 90-100点(A評価)、80-89点(B評価)、70-79点(C評価)、60-69点(D評価)、59点以下(F・不可)						
評価方法	〔前期〕中間試験40%、期末試験60%の割合で評価 〔後期〕期末試験100%で評価			実務経歴	北里大学東洋医学総合研究所に上級研究員として勤務し、東洋医学を研究。東洋医学関連学会(日本東洋医学会、全日本鍼灸学会、日本伝統鍼灸学会、日本医史学会など)の委員として活動。		
履修上の注意	配布資料はページ番号順にバインダーにファイルしてください。			授業時間外の学習	復習を大切に、分からない場合は早めに聞くようにしましょう。		
使用教材	『新版 東洋医学概論』、東洋療法学校協会〔編〕 『新版 経絡経穴概論』、東洋療法学校協会〔編〕			連絡先	担当教員出校日(金曜日)に教務課まで連絡ください。		